

旧歩荷道から西穂高岳・ジャンダルム・奥穂高岳を経て白出沢へ

中部山岳縦断山行

2015年8月11日(火)晴れ、12日(水)晴れのち雨、13日(木)雨

メンバー：佐々木(リーダー・記録)、吉川ふじ

アクセス：

松本ICから安房峠道路を經由し新穂高温泉へ
鍋平登山者駐車場(無料)を利用
復路は、一般道にて高山～下呂～恵那～浜松

第1日目

旧歩荷道を利用して西穂山荘へ：

新穂高温泉から西穂山荘へは、ロープウェイを利用するのが一般的だが、地図を見ればロープウェイの北側に登山道(旧歩荷道)が記されている。たまに物好きな人が歩いているようだが、ネット上にも情報は少ない。

50周年の記念山行でもあり、ロープウェイに頼らず自分の足で登りたいと思い、今回は旧歩荷道を利用して西穂山荘を目指すことにした。

草蒸す中、汗を滴らせて足下の見えにくいトレールを進む。時折、地図を取り出し現在位置と進むべき方向を確認する。滑りやすい石、垂れ下がった枝、崩れ落ちそうなガレ場。確かに万人受けする道ではないが、旧歩荷道には、良く整備された明るく開放的な登山道には無い魅力があった。

旧歩荷道のコース詳細：

鍋平登山者駐車場から約10分でロープウェイ鍋平高原駅に至る。そこから駅舎横の林道を進み、約50分林道を辿れば西穂平に到着する。旧歩荷道の取り付きには、テーブルとベンチ、指標が整備されている。

歩きはじめの数十メートルはブッシュが覆い被さっているが、すぐに明瞭な踏み跡が現れる。踏み跡は想像以上にしっかりしており、所々に赤テープもある。足下に使いやすそうな棒きれが落ちているなどと思って手を伸ばそうとしたら、棒きれがニョロニョロと動いた。頭は見えなかったが、かなり立派な蛇だったと思う。

西穂平から約1時間、標高1800m辺りで沢筋を離れて尾根に乗り上げる。ここの取り付きにはロープも垂れ下がっていたのだが、佐々木は容易に見えず、吉川さんの助言を得て事なきを得た。少し急登が続き、その後は二カ所ほどガレ場をトラバースする。

西穂平から約2時間でロープウェイからの登山道に合流した。



西穂平 旧歩荷道の取り付き



西穂山荘

第2日目

西穂高岳・ジャンダルムを経て奥穂高岳へ

混雑回避と行動時間の余裕確保からヘッドでスタートした。

独標への登り途中で夜明けを迎えた。笠ヶ岳、上高地、蝶ヶ岳、常念岳等をはじめ、八ヶ岳や富士山までが一望できた。美しい朝焼けに足取りも軽く、難なく西穂高岳に到達した。

西穂高岳山頂は多くのパーティーで賑わっていた。半数以上の登山者がヘルメットを着用している。ガイドさんに率いられたパーティーは、ハーネスにロープも使用していた。



我々は他のパーティーに先んじて西穂高岳を後にした。ここから先は、佐々木にとって未知の世界だ。慎重に足場を確認しながら時に三点支持を意識して上り下りを繰り返す。

岩混じりの登りを終われば間ノ岳に達していた。岩にペンキで山名が記されているだけの狭くてシンプルな山頂だった。残りの行程を疑いたくなるほど奥穂山頂が間近に見える。槍ヶ岳までも手に取る近さだ。



間ノ岳と天狗岳



間天のコルからスラブを登り返して天狗岳に登り返す。奥穂、吊り尾根、前穂、奥穂南稜、岳沢小屋……。歩を進めるごとに、少しずつ違った角度と高さから迫力ある景色を楽しむことができた。

天狗岳からは、飛騨側に付けられたルート、鎖を利用して一気に天狗のコルへ下った。天狗のコルにはエスケープルートを示す指標がある。本コースを通じて唯一のエスケープルートだ。天狗のコルから天狗沢を下り岳沢小屋へ至るのだが、下りははじめは急な斜面のガレ場が続く。利用には十分な注意が必要だ。



上：天狗のコル 指標
右：天狗沢から岳沢小屋へのエスケープルート



鎖場を幾つか越えて気づいてみれば、目前にジャンダルムが迫っていた。ジャンダルムの取り付き辺りに荷物をデポして、飛騨側に回り込んで山頂をピストンすることとした。浮き石が多く落石の危険性が高いと判断して慎重に進んだ。案の定、後ろを登っていた他の登山者は落石をおこしていた。落とされた石は、幸いにも下方の登山者の脇をガラガラと落ちていった。当たれば小さな怪我では済みそうにないとゾッとした。

山頂では、お馴染みの天使の風見鶏を背景に記念写真をパチリ。

慎重に下りデポした荷物を回収してロバの耳から一旦下り、馬ノ背へに

進んだ。馬ノ背は奥穂に向かって登りとなるため、見た目ほど難しいものではなかった。

奥穂高岳山頂にて50周年記念手ぬぐいで記念撮影し、本ルート締めくくった。



ジャンダルム山頂



ジャンダルムから望む奥穂



ウマノセ



奥穂山頂にて

第3日目

白出沢ルートから新穂高温泉

白出沢の下りだしは石畳のような歩きやすさだが、すぐにガレた浮き石の多いルートに様相が変わる。ペンキマークも移動しているようで、あま

り信用ならない。雪渓も一部に残っていたが、下山に障害となるものではなかった。

荷継小屋跡から重太郎橋の間では鎖場や梯子が現れる。濡れていると意外に滑る箇所もあり注意を要する。昨日までのような高度感が無いから気は緩みがちだが決して侮れない。重太郎橋から林道の合流点までは樹林帯の中をひたすら下る。この間も、濡れて滑りやすい箇所があり十分に注意が必要だ。

ツェルト泊：

今回は軽量化の試みを兼ねてツェルト利用した。

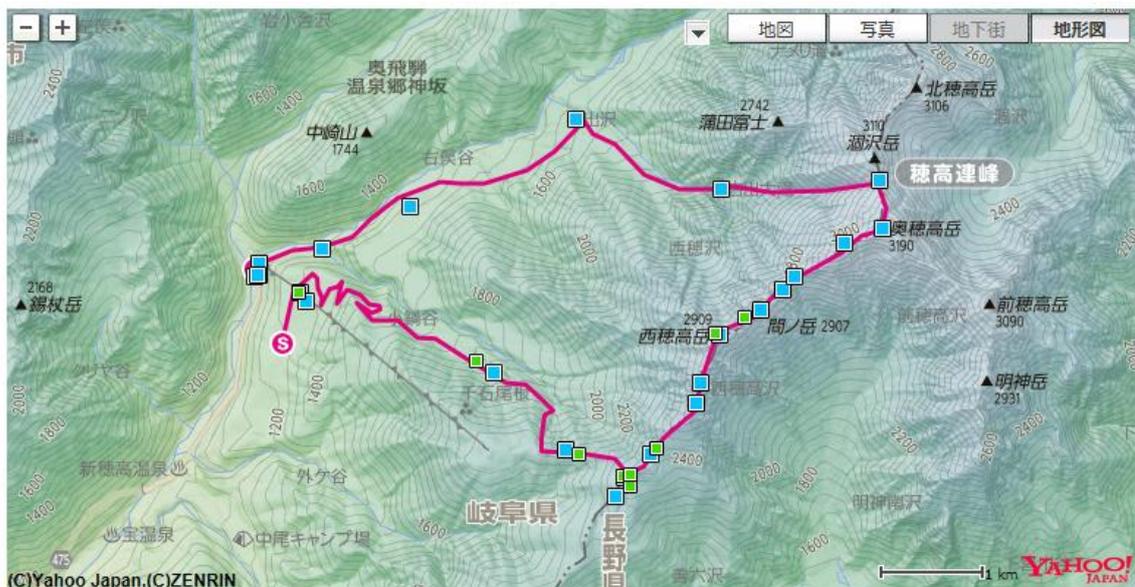
二日目は夜半から雨風に見舞われたが、相応に対策すれば、それほど濡れることなく過ごせることを確認した。

早めに合羽を着る。シュラフを濡らさないようにザックカバーやビニール袋で保護する。低い部分（水が溜まりやすい部分）はマットを折り返して浸水を防ぐ。等々、先輩の智恵を間近で見られたことは、新人にとって貴重な体験であった。

所感

これまで宿題としていた西穂から奥穂のルートをようやく歩くことができた。旧歩荷道、長い岩稜、ツェルト泊、いずれも思い出深いものとなった。

行動概要



コースタイム

1日目 山行 4 時間 30 分 休憩 30 分 合計 5 時間

鍋平駐車場 09:50 10:05 鍋平高原駅 11:00 西穂平旧ボッカ道取り付き 11:10
13:30 合流点 13:50 14:40 西穂山荘泊

2日目 山行 8 時間 10 分 休憩 2 時間 0 分 合計 10 時間 10 分

西穂山荘 04:20 04:40 丸山 05:20 独標 05:30 06:00 ピラミッドピーク
07:00 西穂高岳 07:10 08:15 間ノ岳 08:25 09:15 天狗岳 09:25
09:50 天狗のコル 11:30 ジャンダルム 12:30 13:30 奥穂高岳 13:50
14:30 穂高岳山荘泊

3日目 山行 5 時間 休憩 30 分 合計 5 時間 30 分

穂高岳山荘 05:00 08:00 重太郎橋 08:20 09:20 白出小屋 10:30 新穂高温泉駅

(佐々木 記)